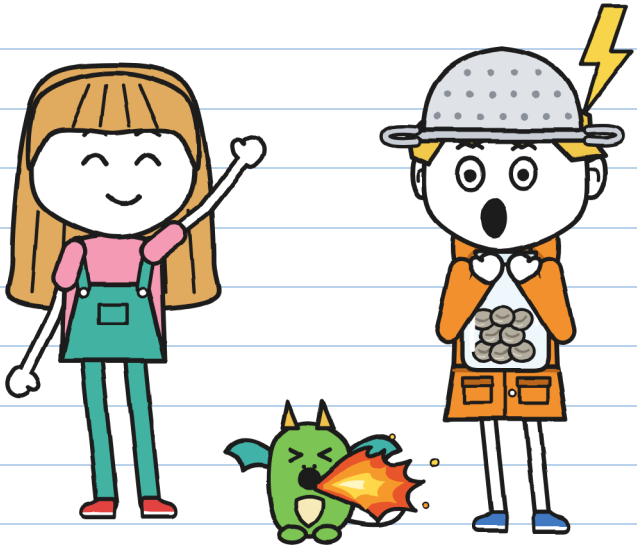
ありえない はいたつ・2

かみなり まえに あけるな

Lui Eriksson



（グニの ノート）

サイズ S
初級・7+

ありえない はいたつ ・ 2
かみなり まえに あけるな

文と絵：Lui Eriksson

サイズ S ・ 初級 ・ 7+

日本語版：LinguAula

初版：2026

© 2026 Lui Eriksson · info@linguaula.com

自由にコピーして、学校でも家でも使えます。

シリーズの 2さつめ。1さつめは「このにもつは かみつく」。

LinguAula

linguaula.comで しょうごとに れんしゅう

この 本(ほん)の 中(なか)で、けがを した かみなりは いない。 —J.



そして、ほかの だれの ものでも ない。 ー。

見(み)つけても、かみなり 前(まえ)に あけちゃ だめだよ。

おはなしの なかだけ

この はんこは、お話(はなし)の 中(なか)だけの ことを しめす：きみは やらないで。何(なん)ページも つづく ときは、「ここから」と「ここまで」が 書(か)いて ある。本当(ほんとう)の あらしの ときは、76ページを 見(み)て。 ーJ.

だれが だれ？



グニ。どようびの
はいたつやさん。あらしの
ハンター（まあ、だいたい）。
この ノートは グニの。



フリータ。いなびかりから
かみなりまでの びょうすうを
かぞえる。みどりで かいて、
「J.」と サインする。



パンくず。ドラゴンの こ。グニの
まねを なんでも する。
ほんとうに なんでも。



トニョ。じてんしゃで
イナズマびんの はいたつを
する。じっぷんで とどかなければ
タダ。



フローラ。うんがどおり9ばんちの
にわし。いしには サインしない。

ベラさん。フローラの いえの
となりの ドラゴンの いえで、
ドラゴンの せわを している。
パンくずは ベラさんと くらして
いる。



マラさん。「ありえない
はいたつ」の てんしゅ。まじょの
ぼうしを かぶっている。いうより
ずっと おおくを しっている。

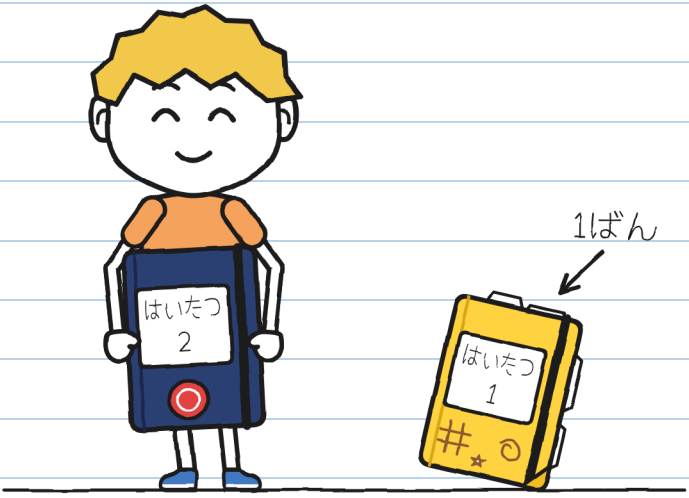


R.は、だれにも とどけられない
にもつを おくるひと。その
なまえを だれも いわない。

グニの
はいたつノート2

こうしき。

「こうしき」は、わたしが 先(さき)に 読(よ)む。こうしきに。 ーJ.



ノート1は もう いっぱいだ。これは 店(みせ)の マラさんが
くれた。店(みせ)の はんこが ついている。こうしきの
ノートに 絵(え)を かいては いけない そうだ。
さあ、どうかな。

第1章
あらしの ハンター

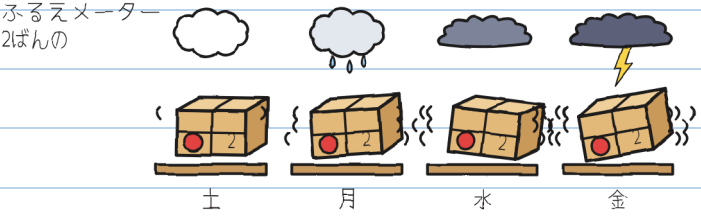
マラさんの 店には、ふるえる にもつが ある。一日ごとに、少しずつ ひどく なる。

ぼくは さわらない つもりだ。

前に フリータと ぼくが とどけた のは たまごだった。

今は パンくずと いって、はねが あって、ぼくの まねを 何でも する。

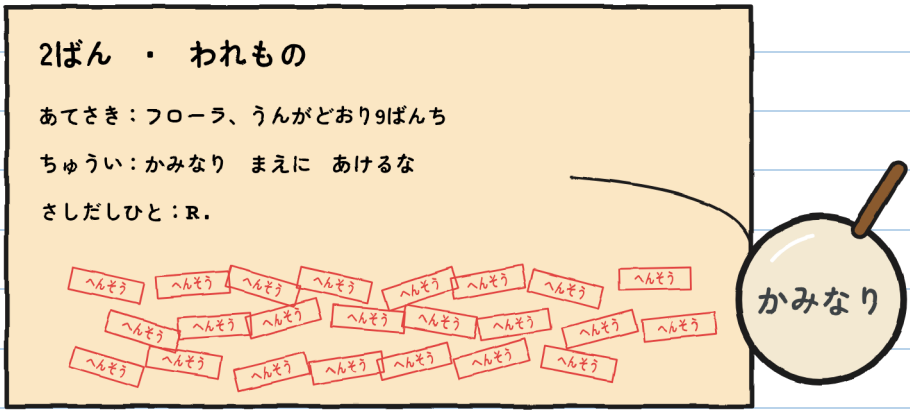
店の 中、ぼくの 家の むかいには、もどってきた にもつが あと 十九こ ある。ひとつは とても いそいで いる。



こわいんじゃ ない。あらしが 来るの。土曜日の 午後六時。

てんきよほうを 六回 見た。 —J.

へんそうされた にもつは、かならず もどってくる。
うけとった 人は、きえない インクで ラベルに
サインを しなければ ならない。フリータの みどりの
ペンのような インクだ。しないと、夜明けに とんで
たなに もどる。ぜんぶ おくるのは 同じ 人：R.



2番の にもつには、「へんそう」の はんこが 二十三こ
おされて いた。

二十三。二回 数えた。 —J.

「二十三回、わたしが はこんだ」と マラさんは
言った。「でも あらしの 日は いちども なかった」

土曜日の 十時、マラさんは 2番の にもつを もって
ぼくたちを まっていた。トニョも いた。土曜日は
三人とも ばつの 日だ。1番の にもつを かってに
とどけた からだ。店の 手つだいを する。

「これは」と マラさんは 言った。「あなたたちが
とどけるのよ。今日の 午後に」

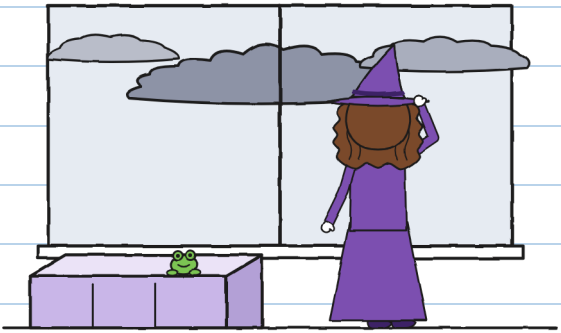


フリータは 大きく ジャンプした。「のこり19」の
ふだに もう少しで さわる ところだった。

マラさんは 三つ じょうけんを 出した。
ゆびで 数えながら：

1. 五時に しゅっぱつ。あらしが 来る 前に。
   すぎるまで フローラの 家に いる こと。
2. かぞくは もう 知っている。フローラも。
3. ラベルの きまり：かみなり 前に あけない。頭の
   上の かみなりは いいが、遠くの は だめ。

「マラさんは 行かないの？」と フリータが 聞いた。
「わたしは ここに やる ことが ある」と マラさんは
言って、ショーウィンドウから 空を 見た。空は
だんだん はいいろに なっていた。



やる ことって なに？ —J.

そのとき フリータが ぼくを 見(み)た。

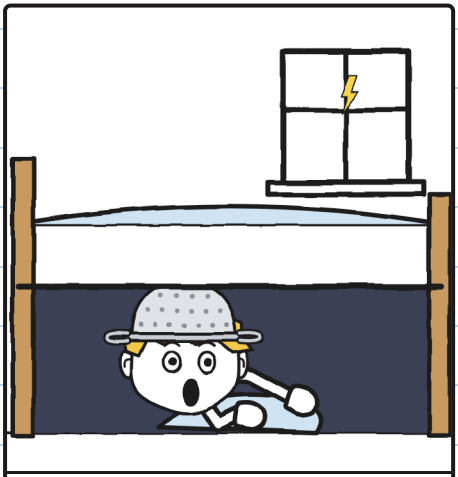
「あらしは すき？」

こう 見(み)られたら だれでも 言(い)う ことを 言(い)った：

「だいすきだよ。前(まえ)の 町(まち)では、プロの あらしの ハンターだったんだ」



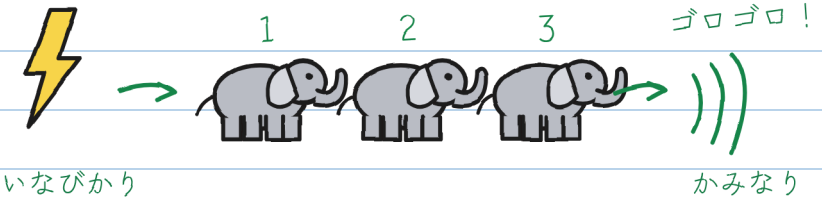
いった こと



ほんとうに おきた こと

ベッドの 下(した)の プロだね。 ーJ.

フリータが あらしの 数え方を 教えてくれた。ぼくの
ノートに。かってに。いつもの ことだ。



ぞう1とう、ぞう2とう、ぞう3とう……

ぞう1とう＝1びょう

ぞう3とう＝1キロ（だいたい）

ぞう0とう＝まうえ！

↖ これが ラベルの かみなり。
とおくの かみなりでは あかない。

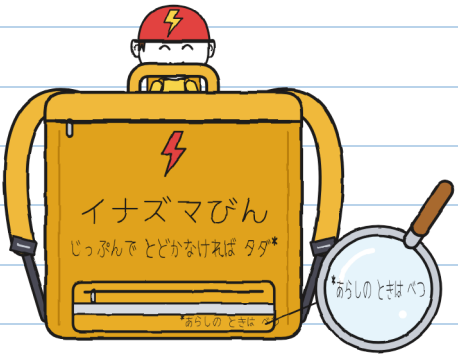
ぞうが おおい ほど、その いなびかりは とおくに おちた。

かみなりが きこえたら、とおくても：なかへ！

知っている ことは、こわさが へる。 —J.

ぼくは 数えなくても いい：あらしは だいすきだから。
でも ねんの ため 書いておいた。

トニョが ぼくの かたごしに ラベルを 読んだ。
「イナズマ便は、あらしの 日には とどけない」
トニョは リュックの 小さい 字を 見せた。
「まだ あらしじゃ ないでしょ」と フリータ。
トニョは 見直した。「まだ」とは なかった。

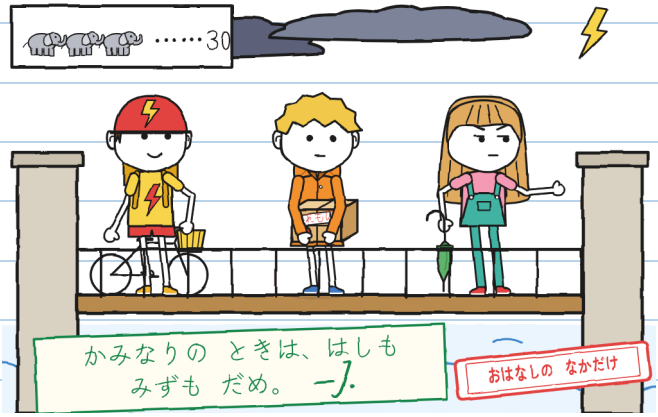


小さい 字は、小さすぎた。 —J.

トニョは ぼくたちと いっしょに 来た。
五時に 家へ 行って、レインコートを とって きた。
「オレンジのを きて いきなさい」と お母さん。
「ほんとうに 行くの？ かみなりが 鳴ると……」
「いってきまーす、お母さん！」

「鳴ると……」って？ —J.

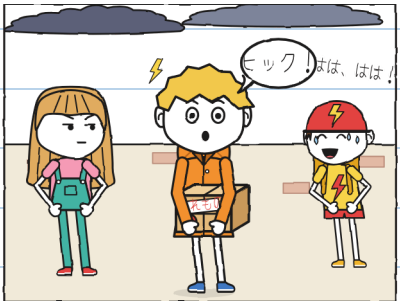
ぼくたちは おおはしを わたった。夜には 船が
通れるように はしが 上がる。空は ますます 黒い。
まん中で、フリータは 手を ふって 水に
あいさつした。まじめな 顔で。うんがと フリータは
なかが わるい。



遠くで、空が ぴかっと 光った。フリータは ぞうを
30とう 数えた。
ゴロゴロ。
「あの いなびかりまで 十キロくらい ね」
と フリータは 言った。「てんきよほうだと、
あらしは 六時ごろ」
「かみなりが 鳴った！」と トニョが 言った。「もう
あけて いい？」

「あれじゃ にもつは あかない」と フリータは
言った。「ラベルのは ぞう0とうの やつ。でも もう
聞こえる。中に かくれよう！」
うんが通りまで 走った。ぼくは 聞こえない
ふりを した。

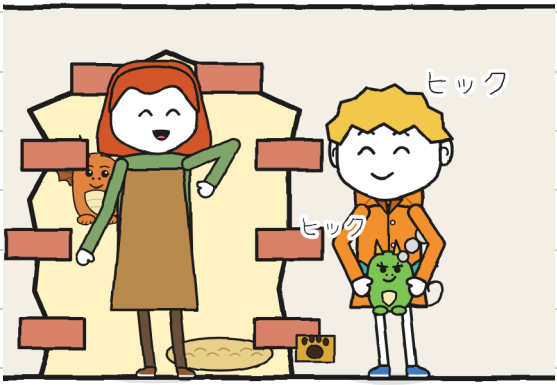
「今の、ヒック？」と フリータが 聞いた。
「ちがう」と ぼくは 言った。「ヒック！」



小さい ときから、かみなりの ときだけ。
かみなりごとに、しゃっくりが つづく。さんびょうに
一回。あらしが まうえに 来ると、止まらない。
こわいんじゃ ない。体が 聞かずに やるんだ。

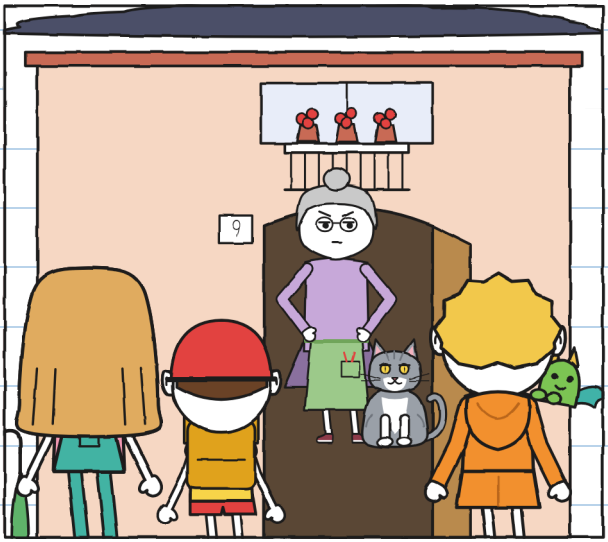
それを こわいって 言うの。 —J.

ベラさんは 入り口で、パンくずを だいて まって いた。土曜日は、パンくずは ぼくと さんぽだ。
「今日は フローラの 家までよ。はじめての あらしなの」と ベラさんは 言って、パンくずを わたして くれた。「グニの まねを 何でも する。気もち まで。おびえても、引っぱっちゃ だめ：しがみつくから。あらしが すんだら、へいを 三回 たたいて。すぐ 行く」
「ぼくは 何も かんじないよ」と ぼくは 言った。
「あらしは だいすき なんだ」



遠くで かみなりが 鳴った。ぼくは ヒック。パンくずも ヒック。はなから けむりが 出た。
「すぐ 中へ！」と ベラさんが 言った。

フローラの 家は、ゼラニウムの 家だ。二週間まえの
土曜日、フローラは あの ベランダから ぼくたちを
見ていた。ぼくたちは ドラゴンの 家の 入り口を
さがして いた。あの 入り口は、かべみたいだ。



フローラは ドアを あけた。ノックする ひまも
なかった。フローラは はこを 見て、空を 見て、
パンくずを 見た。
「ベラの ところの 子ね。わたしの シダを
こがさないでよ」と 言った。「入りなさい、雨が
来るよ。先に 言って おくけど、わたしは 石には
サインしないからね」

ひとつの おはなし、むっつの サイズ

サイズは 六つ あって、3さいから 16さいまで。ことばは 20いじょう。**XXS**、**XS**、**S**、**M**、**L**は ページも 絵も 同じ。**XL**は しょうせつ。ちがうのは 話し方だけ。

サイズ XXS · PRE-A1
フリータが ななつめの たねを つかまえる。

サイズ XS · A1
ゆかに たねが ひとつ のこって いた。フリータが つかまえた。ななつ。

サイズ S · A2
また いなびかり。ゆかには たねが 一つ のこって いた。フリータが つかまえた。七つ。

サイズ M · B1
次のいなびかりで、ゆかにのこっていたのはたねが一つ。フリータがつかまえた。七つ。

サイズ L · B2
また稲光が光ったとき、ゆかにはたねがただ一つのこっていて、フリータがつかまえた。七つ。

サイズ XL · B2-C1
イラスト小説 · 13+
CEFRのレベルは目安です。

みんな 自分(じぶん)の サイズで。おなじ あらし。 —J.

おうちの ひとと せんせいへ

linguaula.comで しょうごとに れんしゅう